

「森林気象害のリスク評価手法に関する研究」報告書

森林気象害のリスクを探る

令和2年3月



国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林保険センター



国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

平成 27 年に森林保険業務が政府から国立研究開発法人森林総合研究所（当時）に移管され、森林保険センターが設置されました。移管を受けて、森林保険センター委託による「森林気象害のリスク評価手法に関する研究」（平成 27 年度～令和元年度）が森林総合研究所により実施されました。この研究は、森林保険センターが保有する気象害データを活用した、風害・雪害・林野火災リスクに関する評価手法の開発と、それによる保険業務の高度化を通じ移管に関して相乗効果をもたらすためのプロジェクトです。本報告書は「森林気象害のリスク評価手法に関する研究」の成果を分かりやすくまとめたものです。

目次

- 2 樹木の揺れから風害リスクを知る
- 6 土地にひそむ冠雪害のリスク評価に挑む
- 11 森の「かわき」と林野火災
- 15 リモートセンシングで森林被害を調べる
- 19 強風の発生頻度と風害面積
- 20 針葉樹林で発生する火災の強度を試算
- 21 森林被害調査システム
- 22 マップ：風速および風害リスク示数の推定値
- 23 マップ：冠雪害が発生する再現期間の推定値
- 24 マップ：林野火災の発生危険日数の推定値